

— 体幹部 —

肩甲骨 正面・軸位

鎖骨 正面Ⅰ・正面Ⅱ

肩鎖関節 正面・側面

胸骨 正面・側面

肋骨 正面・斜位

骨盤 正面・斜位

インレット・アウトレット

仙腸関節 正面・斜位

恥骨 正面・軸位

肩甲骨正面撮影

● 検査目的 ●

外傷による骨折、脱臼などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・呼吸で体が動いてしまう際には息止めで撮影し体動を防ぐ。

● ポジショニング ●

- ・立位または座位でAP方向撮影とし、パネルの中央に健康部を付け上体の前額面を検側に20°回旋する。
- ・上肢は肘を曲げて上腕を外転させ、手は腰部に当てる。
- ・中心線は肩甲骨のほぼ中央部(第3肋骨の外側縁)に向かってパネルに対し垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

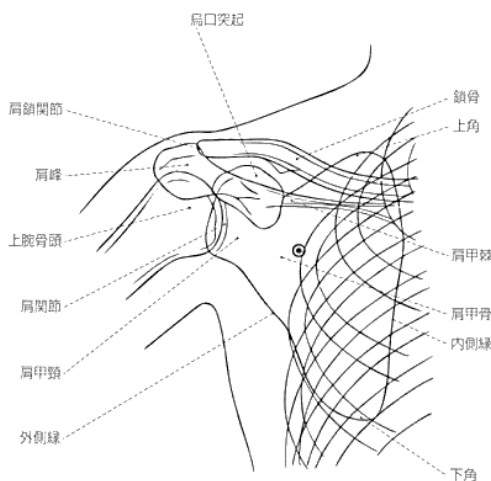
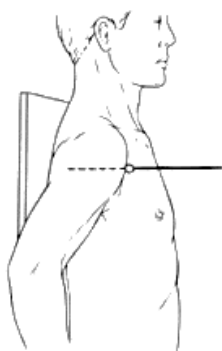
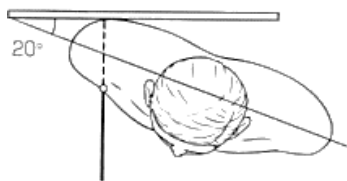
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No.3・5・6、3F	正面	60	200	63	100	10*12	12	○	0.973
No.2	正面	64	200	63	100	10*12	12	○	0.973
全部屋	正面：VG	60	200	40	100	10*12	12	VG	0.537

● 画像の良否 ●

・肩甲骨と上腕骨頭が分離して描出され、肩甲骨の辺縁が明瞭に投影されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



肩甲骨軸位撮影

● 検査目的 ●

外傷による骨折、脱臼などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・呼吸で体が動いてしまう際には息止めで撮影し体動を防ぐ。

● ポジショニング ●

- ・PA方向撮影で検側をパネルに付け、非検側をパネルから離すように20° 回旋する。
- ・上肢は検側の手で非検側の肩を掴む。
- ・中心線は肩甲骨内側縁に向けてパネルに対し垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

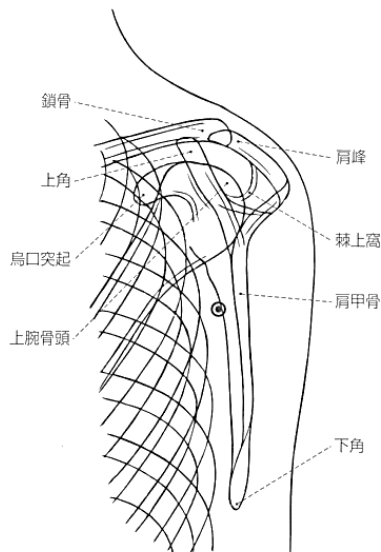
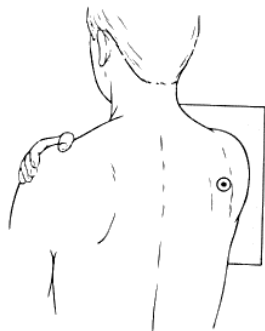
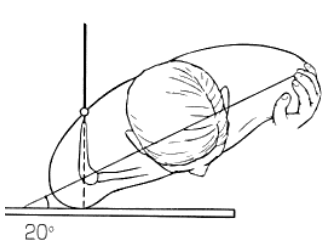
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No. 2・3・5	軸位	74	200	100	100	10*12	20	○	2.655
No.6、3F	軸位	76	200	80	100	10*12	20	○	2.062
全部屋	軸位：VG	70	200	63	100	10*12	20	VG	1.386

● 画像の良否 ●

・肩甲骨と上腕骨頭が分離して描出され、肩甲骨の辺縁が明瞭に投影されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



鎖骨体正面撮影

● 検査目的 ●

外傷による骨折、転移性の悪性腫瘍などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・固定をしている場合には外すことが可能か確認をする。不明な場合は依頼医に確認をとる。

● ポジショニング ●

- ・AP方向撮影で上体の前傾や捻じれがないように前額面をパネルと平行にする。
- ・上肢は自然下垂位にする。
- ・中心線は鎖骨の中央に向けてパネルに対し垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

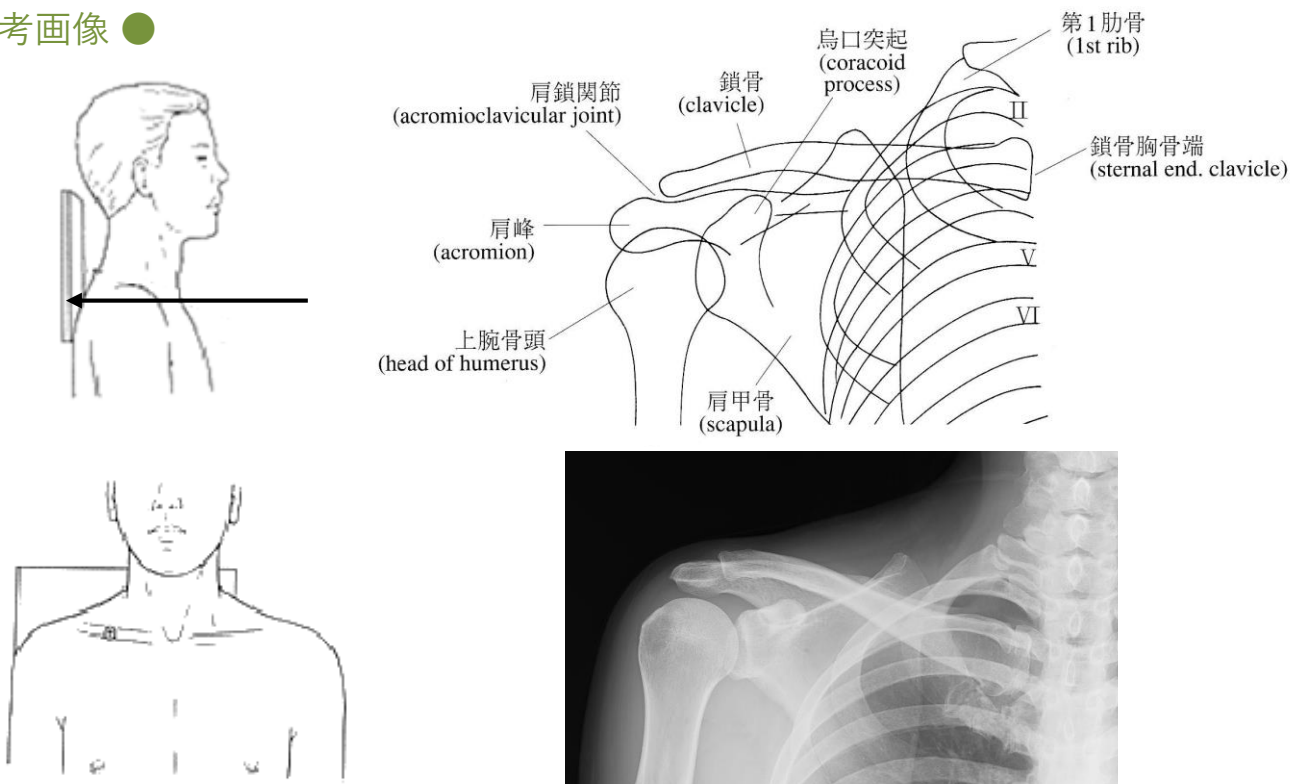
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
全部屋	体正面	50	200	40	100	10*12	10	×	0.347

● 画像の良否 ●

- ・鎖骨の骨梁が全体にわたり明瞭に描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



鎖骨正面撮影

● 検査目的 ●

外傷による骨折、転移性の悪性腫瘍などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・固定をしている場合には外すことが可能か確認をする。不明な場合は依頼医に確認をとる。

● ポジショニング ●

- ・AP方向撮影で上体の前傾や捻じれがないように前額面をパネルと平行にする。
- ・上肢は自然下垂位にする。
- ・中心線は鎖骨の中央に向けて尾頭方向30°で入射する。

● 撮影条件 ●

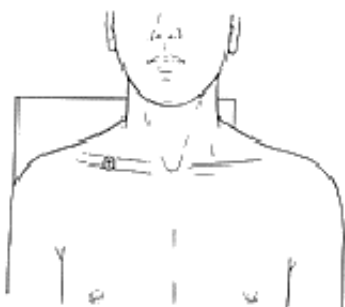
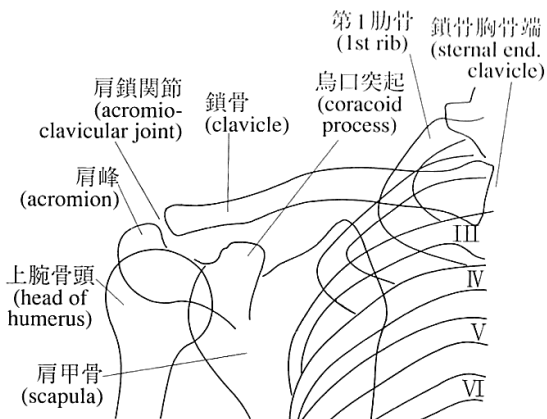
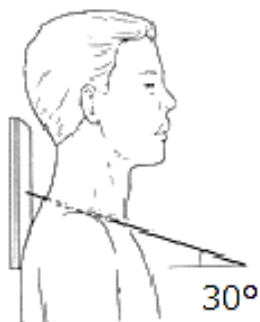
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
全部屋	関節正面	54	200	40	100	10*12	10	×	0.429

● 画像の良否 ●

- ・鎖骨がより胸郭から分離して描出されていること。
- ・骨折の変位、骨片や胸郭との関係が明瞭に描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



肩鎖関節正面撮影

● 検査目的 ●

外傷による肩鎖関節を構成している骨の骨折、肩鎖関節の脱臼などの観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・固定をしている場合には外すことが可能か確認をする。不明な場合は依頼医に確認をとる。
- ・照射野は鎖骨を対象に絞る。
- ・体表に近いところに存在するため撮影条件や絞りに気を付ける。

● ポジショニング ●

- ・AP方向撮影で上体の前額面を垂直に保ちながら、パネルに対して検側へ5°回旋させる。
- ・上肢は自然下垂位にする。
- ・中心線は肩鎖関節部に向けて尾頭方向10°で入射する。
- ・2方向撮影では上体の前額面をパネルに平行とし、肩鎖関節部にパネルに対して垂直に入射する方法とセットで行う。

● 撮影条件 ●

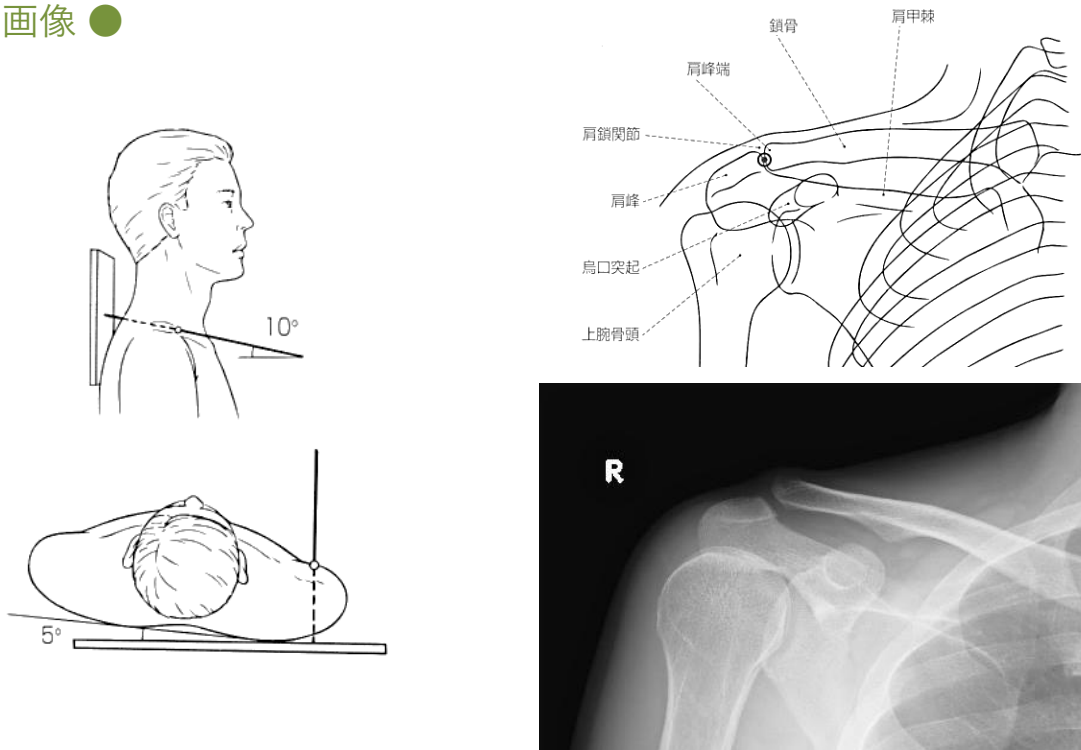
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
全部屋	正面	50	200	40	100	10*12	10	×	0.347

● 画像の良否 ●

- ・肩峰の関節面と鎖骨の肩峰関節面が接線像として肩鎖関節腔を抽出し、肩峰と鎖骨の上下方向の変位や関節腔の広さ、鎖骨肩峰端の病変が抽出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



胸鎖関節正面撮影

● 検査目的 ●

外傷による胸鎖関節を構成している骨の骨折、胸鎖関節の脱臼などの観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・呼吸で体が動いてしまう際には息止めで撮影し体動を防ぐ。

● ポジショニング ●

- ・立位または座位でPA方向撮影とし、検側の肩をパネルに付ける。
- ・上体の前額面をパネルに対して50° 斜位にし、上肢は下垂させる。
- ・中心線は非検側背面の肩甲棘中央(検側の胸鎖関節部)にパネルに対し垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

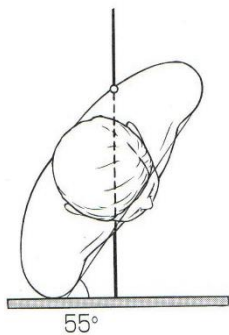
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No3・5・6・3F	正面	60	200	56	100	10*12	24	○	0.896
No.2	正面	64	200	63	100	10*12	24	○	1.295
全部屋	正面：VG	60	200	40	100	10*12	24	VG	0.718

● 画像の良否 ●

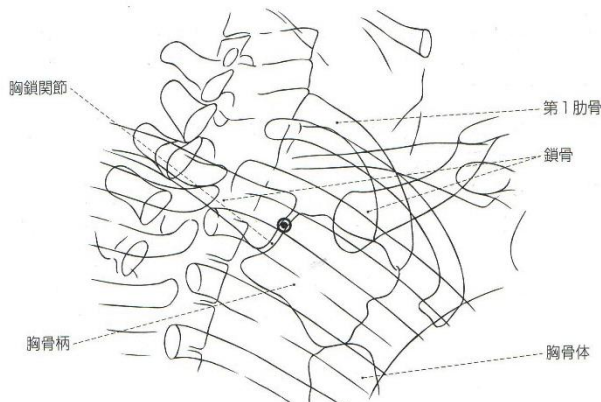
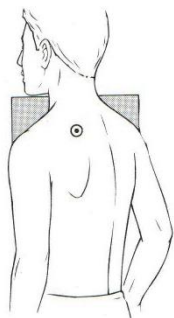
- ・検側鎖骨の胸骨端が胸椎の非検側前縁に位置し、その前方に検側胸鎖関節腔が描出されていること。
- ・非検側は鎖骨と胸骨柄が関節腔を開けず連続して描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



55°



胸骨正面撮影

● 検査目的 ●

外傷による骨折、脱臼などの観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・体型により撮影法を使い分け、第2斜位では最大吸気、第1斜位では呼気で撮影をする。
(例：体格が良くて肺野が小さそうな人には第1斜位を選択)

● ポジショニング ●

- ・立位または腹臥位のPA方向撮影とし、身体の左側前面をパネルに密着させ、20°の角度で左前斜位とする。
- ・下肢の歩幅は肩幅くらいに開き安定させ、両腕は脇を開けて下垂させる。
- ・中心線は肩甲骨上角と下角の midpoint (胸骨体中央) に向けてパネルに対し垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

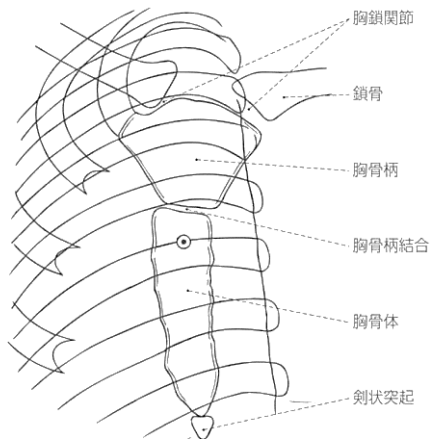
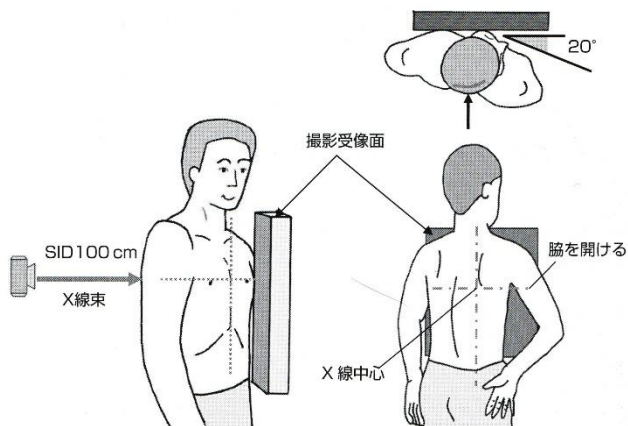
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No3・5・6・3F	正面	60	200	56	100	10*12	24	○	0.896
No.2	正面	64	200	63	100	10*12	24	○	1.295
全部屋	正面：VG	60	200	40	100	10*12	24	VG	0.718

● 画像の良否 ●

- ・第2斜位撮影法では胸骨全体が肺野内に描出されていること。
- ・第1斜位撮影法では心陰影上に胸骨が重複して描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



胸骨・胸鎖関節側面撮影

● 検査目的 ●

外傷による骨折、脱臼などの観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・ポジショニングの際には胸骨全体が確認できるようにするが、痛みなど無理させないように注意する。

● ポジショニング ●

- ・立位または座位で両手を後ろで組んで両肩を後方に反らすように胸を張る。
- ・正中矢状面がパネルと平行になるようにし、痛みがある方の面をパネルに密着させるようにする。
- ・中心線は胸骨上窩と剣状突起の midpoint で、前胸壁皮膚面から2cm内側にパネルに対し垂直に入射する。
- ・照射野は前後5cm程度に絞り、最大吸気の呼吸停止で撮影する。

● 撮影条件 ●

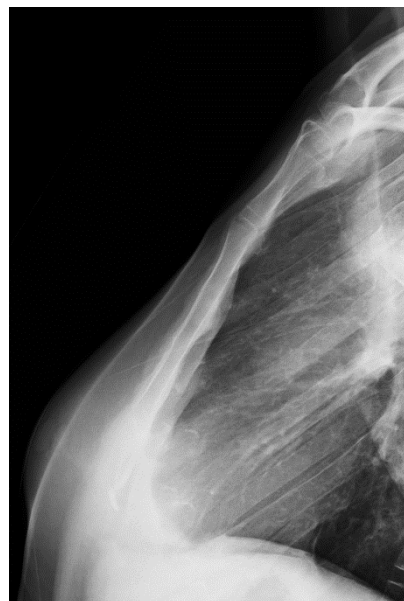
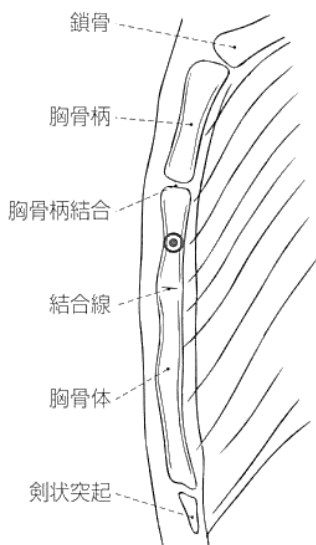
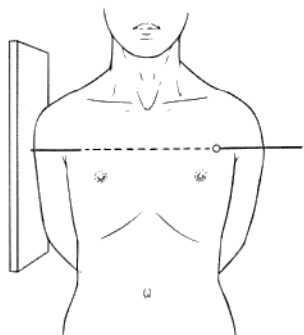
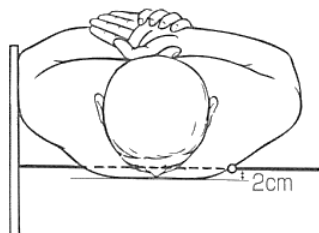
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No3・5	側面	80	400	50	100	10*12	30	○	3.562
No.6・3F	側面	76	200	50	100	10*12	30	○	3.357
No.2	側面	80	200	80	100	10*12	30	○	3.059
全部屋	側面：VG	70	200	40	100	10*12	30	VG	1.183

● 画像の良否 ●

- ・胸骨柄から剣状突起下端まで正確な側面で明瞭に描出されていること。
- ・照射野を絞りハレーションによるコントラスト低下を防ぐこと。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



肋骨正面撮影

● 検査目的 ●

外傷性骨折、脱臼、骨髄炎などの炎症、腫瘍などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・上部肋骨では吸気、下部肋骨では呼気で撮影する。
- ・患者に痛みがある部位を確認し必ず撮影範囲に含める。

● ポジショニング ●

- ・立位または座位で検側の胸部または背部をパネルに付けて安定した体位とする。
- ・上部肋骨の場合はパネルの上縁を第1肋骨が欠けないように合わせ、下部肋骨の場合はパネルの下縁を第12肋骨が欠けないように合わせる。
- ・上肢は手背を腰部に当て肘を軽度曲げて前方出し、肩甲骨が肺野にかからないようにする。
- ・中心線は上部肋骨の場合は肩甲骨下角または胸骨上窩と剣状突起の中間の高さ、下部肋骨の場合は剣状突起にパネルに対して垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

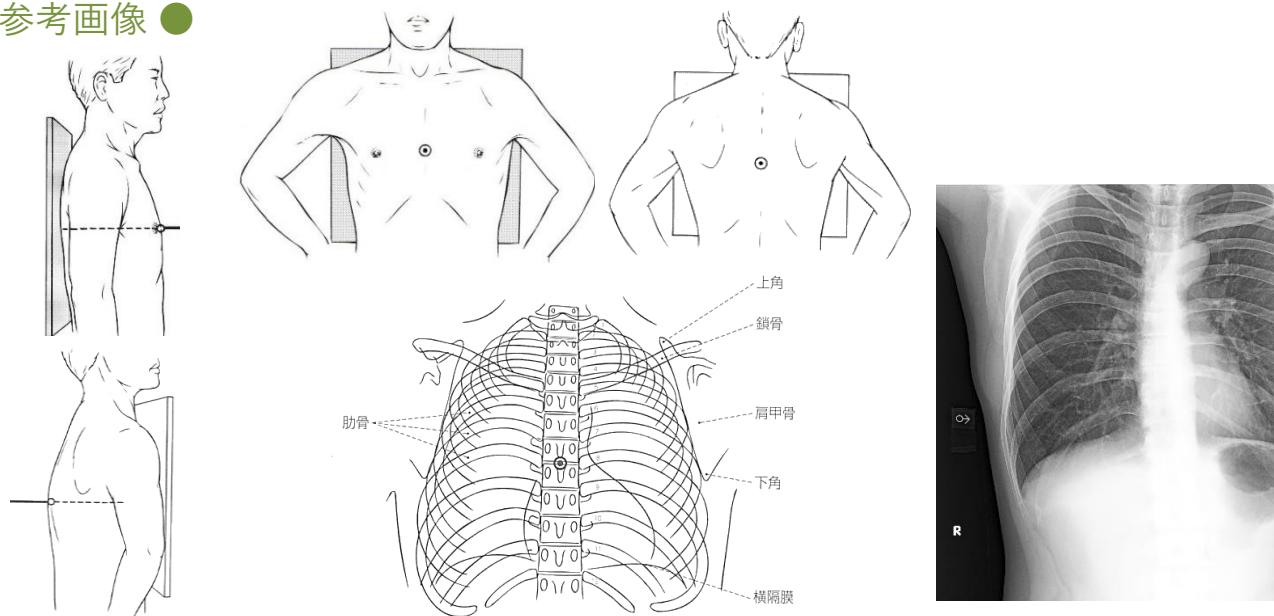
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No3・5	正面	60	200	63	100	14*14	20	○	1.068
No.6・3F	正面	60	200	40	100	14*14	20	○	0.644
No.2	正面	64	200	63	100	14*14	20	○	1.188
全部屋	正面：VG	60	200	36	100	14*14	20	VG	0.588

● 画像の良否 ●

- ・正面性が確保されていること。
- ・第1肋骨が欠けていないこと(上部)、又は第12肋骨下端が欠けていないこと(下部)
- ・胸椎が欠けていないこと。
- ・息止めが適切に行われていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



肋骨斜位撮影

● 検査目的 ●

外傷性骨折、脱臼、骨髄炎などの炎症、腫瘍などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・上部肋骨では吸気、下部肋骨では呼気で撮影する。
- ・患者に痛みがある部位を確認し必ず撮影範囲に含める。

● ポジショニング ●

- ・立位または座位で検側の胸部または背部をパネルに付ける。
- ・椎体を検側から外す方向に30～60°の斜位(AP方向撮影の場合は検側をパネルに近付け、PA方向撮影の場合は検側をパネルから離す方向)とする。
- ・上肢は挙上し胸郭から離すようにする。
- ・中心線は上部肋骨の場合は肩甲骨下角または胸骨上窩と剣状突起の中間の高さ、下部肋骨の場合は剣状突起にパネルに対して垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

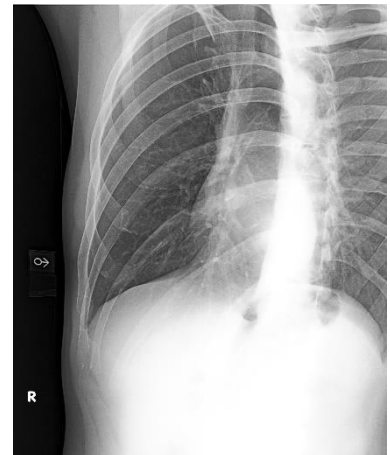
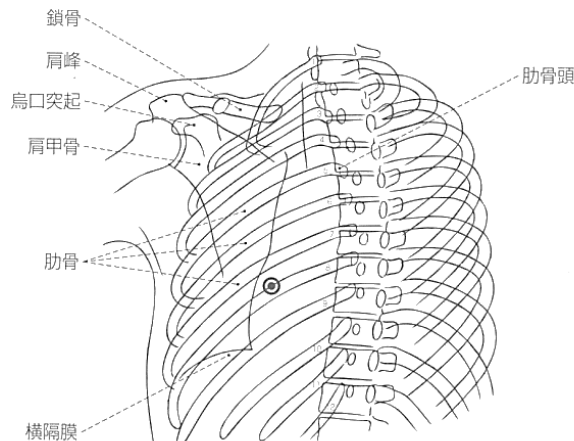
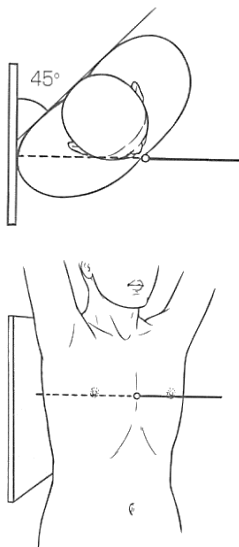
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No3・5	斜位	64	200	80	100	14*14	24	○	1.747
No.6・3F	斜位	64	200	50	100	14*14	24	○	1.030
No.2	斜位	64	200	80	100	14*14	24	○	1.655
全部屋	斜位：VG	70	200	36	100	14*14	24	VG	0.916

● 画像の良否 ●

- ・胸郭に上肢が重ならず、胸椎が欠けていないこと。
- ・第1肋骨が欠けていないこと(上部)、又は第12肋骨下端が欠けていないこと(下部)
- ・骨折などの所見があれば、その部位が明瞭に観察できる角度であること。
- ・息止めが適切に行われていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



骨盤正面撮影

● 検査目的 ●

外傷性疾患による骨折、脱臼、および炎症、腫瘍などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・解剖学的に腸骨稜や大転子が過濃度になりやすいので、照射野を適切に絞り高コントラストの画像を得よう心掛ける。
- ・撮影範囲に生殖腺が入るため、照射野や撮影条件に注意する。
- ・オーダーコメントまたは本人の要望があれば検査目的を満たしつつ性腺防護を行うこと。

● ポジショニング ●

- ・仰臥位で両膝は伸展し、両足第1指を密着するように下肢を内旋させる。
- ・骨盤は左右の上前腸骨棘を結ぶ線が水平となるようにする。
- ・中心線は両上前腸骨棘を結ぶ線と恥骨結合の中心に向かってパネルに対して垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

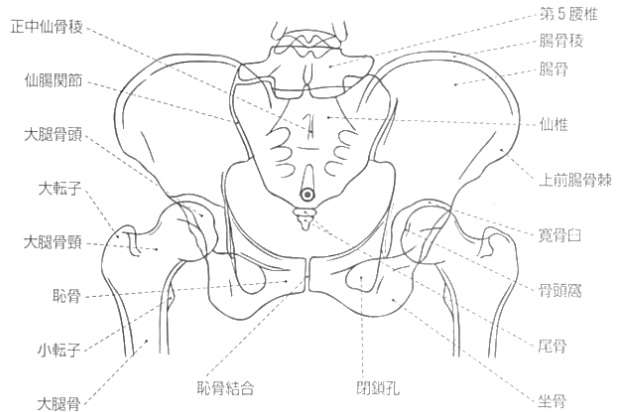
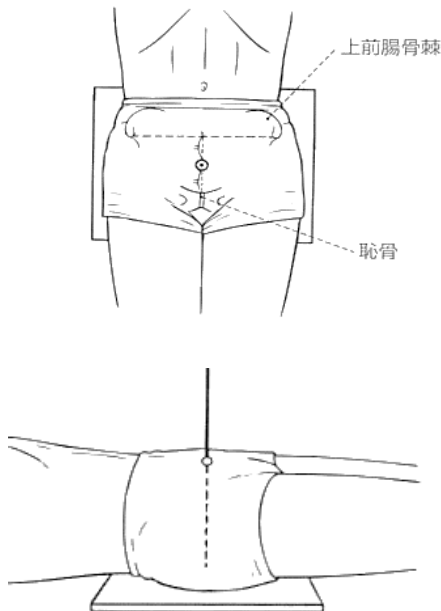
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5	正面	70	400	80	140	14*17	18	○	1.520
No.6、3F	正面	70	400	40	140	14*17	18	○	0.759
全部屋	正面：VG	70	200	40	140	14*17	18	VG	0.379

● 画像の良否 ●

・左右の腸骨、仙腸関節、大転子、坐骨および恥骨などが左右対称に抽出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



骨盤斜位撮影

● 検査目的 ●

外傷性疾患による骨折、脱臼、および炎症、腫瘍などの病変の有無の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・解剖学的に腸骨稜や大転子が過濃度になりやすいので、照射野を適切に絞り高コントラストの画像を得よう心掛ける。
- ・撮影範囲に生殖腺が入るため、照射野や撮影条件に注意する。

● ポジショニング ●

- ・仰臥位で非検側を45° 挙上した斜位とし、検側の骨盤部後面(側面)をパネルに付ける。
- ・検側の股関節と膝関節は軽度屈曲し、非検側の下肢は軽く膝を立てて安定させる。
- ・中心線は上前腸骨棘の midpoint で上前腸骨棘の高さより2~3cm足側にパネルに対し垂直に入射する。

● 撮影条件 ●

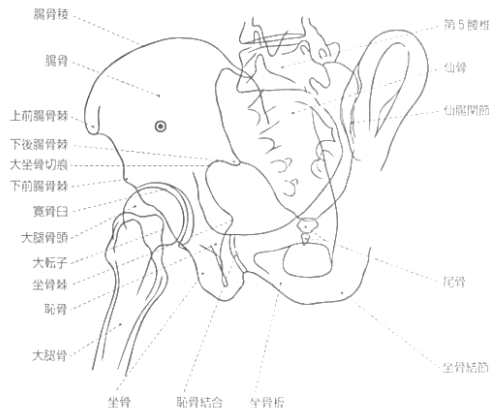
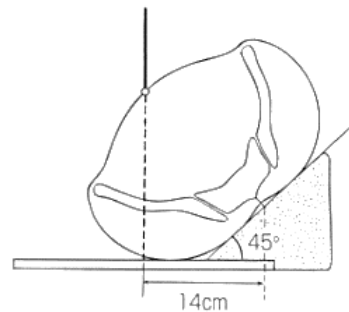
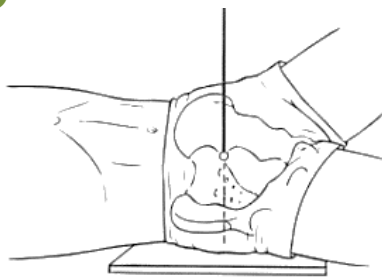
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5	斜位	70	400	125	140	14*17	18	○	2.411
No.6、3F	斜位	70	400	40	140	14*17	18	○	0.759

● 画像の良否 ●

- ・骨盤を形成する骨が全て描出されており、骨梁が明瞭に観察できること。
- ・検側腸骨棘が外側に突出し、腸骨が正投影像として広く抽出されていること。
- ・検側坐骨および恥骨が軸位像として描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



骨盤インレット撮影

● 検査目的 ●

骨盤の左右半分の後方転位と骨盤前部の内旋または外旋の状態の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・撮影範囲に生殖腺が入るため、照射野や撮影条件に注意する。

● ポジショニング ●

- ・仰臥位で両下肢は伸展位とする。
- ・骨盤は左右の上前腸骨棘を結ぶ線が水平となるようにする。
- ・中心線は正中線と両上前腸骨棘の midpoint に向けて頭尾方向30°で入射する。

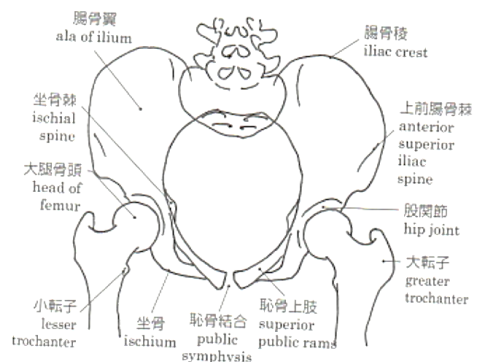
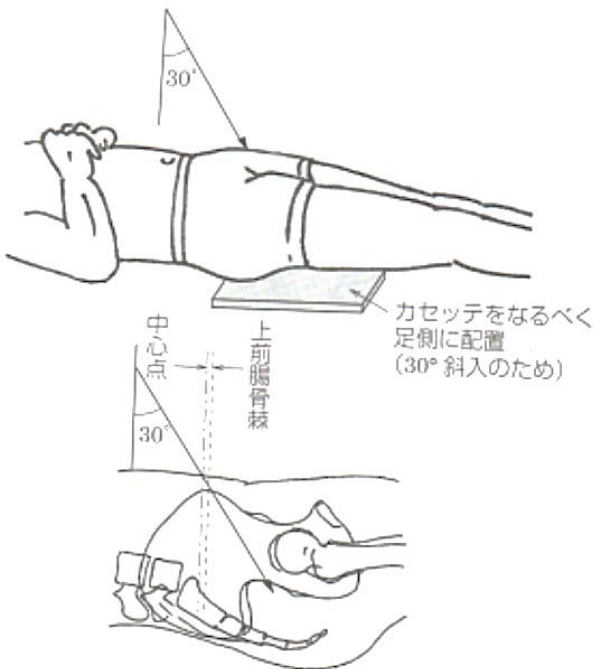
● 撮影条件 ●

撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5、3F	インレット	70	400	160	140	14*17	22	○	1.980
No.6	インレット	70	400	80	140	14*17	22	○	0.987
全部屋	インレット：VG	72	200	50	140	14*17	22	VG	0.584

● 画像の良否 ●

- ・腸骨、仙腸関節、坐骨および恥骨などが左右対称に描出されていること。
 - ・小骨盤腔が上下に伸展し、腸骨、恥骨、坐骨、寛骨臼が半軸位像として描出されていること。
- ※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



骨盤アウトレット撮影

● 検査目的 ●

骨盤後部の上方転位と骨盤前部の上下転位の状態の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・撮影範囲に生殖腺が入るため、照射野や撮影条件に注意する。

● ポジショニング ●

- ・仰臥位で両下肢は伸展位とする。
- ・骨盤は左右の上前腸骨棘を結ぶ線が水平となるようにする。
- ・中心線は正中線と大転子より2cm頭測を結ぶ線の交点に向けて、尾頭方向30°で斜入する。

● 撮影条件 ●

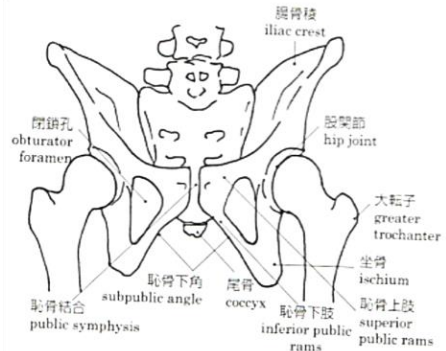
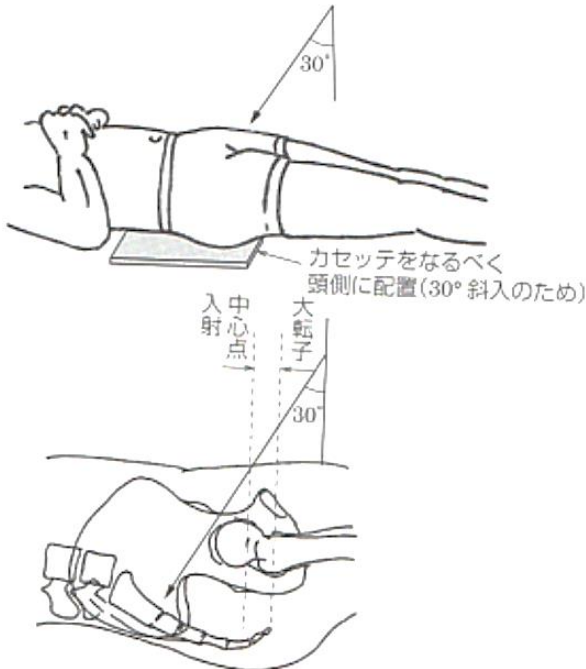
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5・3F	アウトレット	74	400	160	140	14*17	22	○	2.215
No.6	アウトレット	74	400	80	140	14*17	22	○	1.121
全部屋	アウトレット：VG	74	200	63	140	14*17	22	VG	0.774

● 画像の良否 ●

- ・腸骨、仙腸関節、坐骨および恥骨などが左右対称に描出されていること。
- ・閉鎖孔が左右対称であり、坐骨部下縁が描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



仙腸関節正面撮影

● 検査目的 ●

外傷性疾患による両側仙腸関節、骨折部位、炎症、腫瘍、骨癒合の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・オーダーコメントまたは本人の要望があれば性腺防護を行うこと。

● ポジショニング ●

- ・背臥位AP撮影、骨盤の正中面をパネル中心に合わせる。
- ・左右の上前腸骨棘を結ぶ線を水平にし、下肢は伸展する。伸展が困難な場合は軽度屈曲する。
- ・中心線は恥骨結合上縁と正中線の交点に男性は尾頭方向15° 女性は尾頭方向25° で斜入する。

● 撮影条件 ●

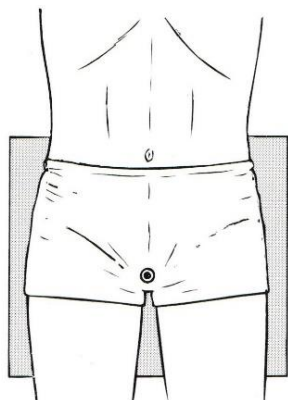
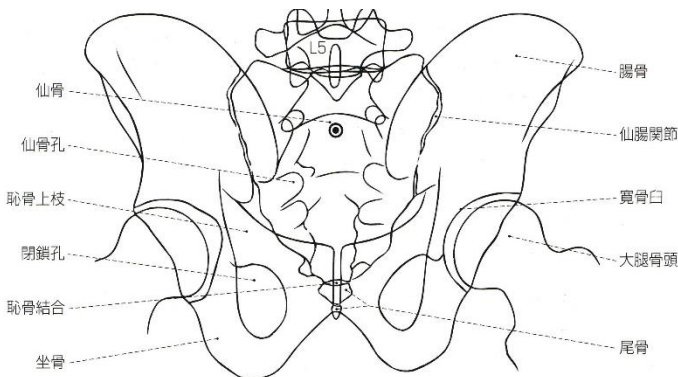
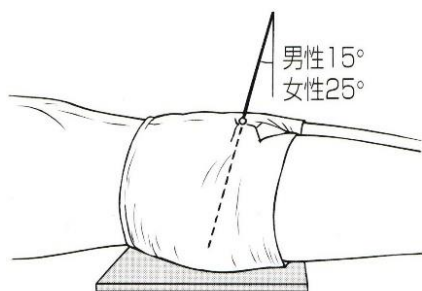
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5	正面	70	400	100	100	10*12	18	○	3.764
No.6・3F	正面	70	400	50	100	10*12	18	○	1.925

● 画像の良否 ●

- ・仙骨が正面像に抽出され両仙腸関節が対称に描出されていること。
- ・仙骨下部および尾骨は恥骨と重複していること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



仙腸関節斜位撮影

● 検査目的 ●

外傷性疾患による仙腸関節、骨折部位、炎症、腫瘍、骨癒合の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・オーダーコメントまたは本人の要望があれば性腺防護を行うこと。

● ポジショニング ●

- ・背臥位AP撮影、骨盤の正中面をパネル中心に合わせる。
- ・左右の上前腸骨棘を結ぶ線がパネルに対し40° になるように検側を上げる。
- ・非検側の股関節や膝は軽度屈曲させ、大腿や膝の外側をパネルに付ける。検側の膝は立てて体位を安定させる。股関節の開排、屈曲が困難な場合は伸展のまま撮影をする。
- ・中心線は恥骨結合上縁と正中線の交点に男性は尾頭方向15° 女性は尾頭方向25° で斜入する。
- ・オーダーに下位仙腸関節などのコメントがある場合や目的が下位仙腸関節だと思われる場合は適宜斜位の角度を調節(20°)して撮影する。

● 撮影条件 ●

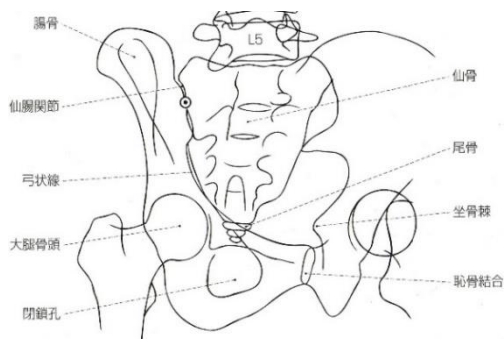
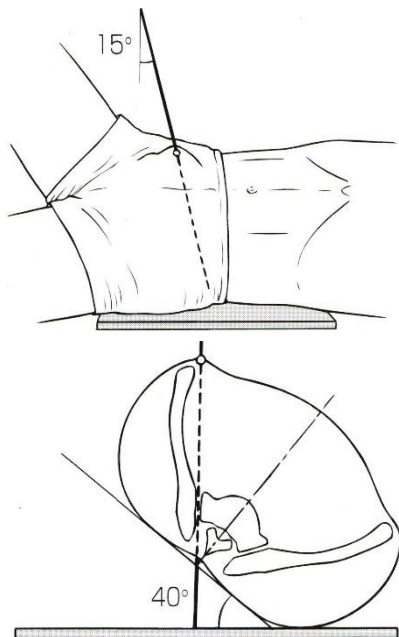
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5	斜位	70	400	100	100	10*12	20	○	4.570
No.6・3F	斜位	70	400	71	100	10*12	20	○	3.225

● 画像の良否 ●

・検側腸骨が軸位像として描出し、仙腸関節が分離して観察できること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



恥骨・坐骨正面撮影

● 検査目的 ●

骨折、疾病を原因とする骨変化の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・車椅子・ストレッチャーから寝台へ移動の際には転倒・転落がないように注意する。

● ポジショニング ●

- ・仰臥位で両下肢を伸展位とする。
- ・左右の上前腸骨棘を結ぶ線が水平となるようにする。
- ・中心線は正中線上で大転子より3~4cm足側に向けて尾頭方向30°で斜入する。

● 撮影条件 ●

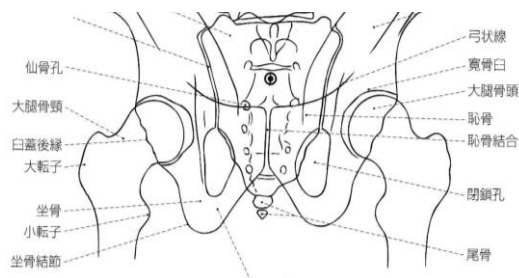
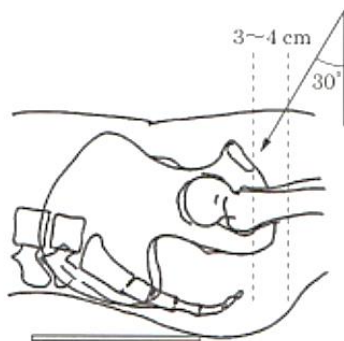
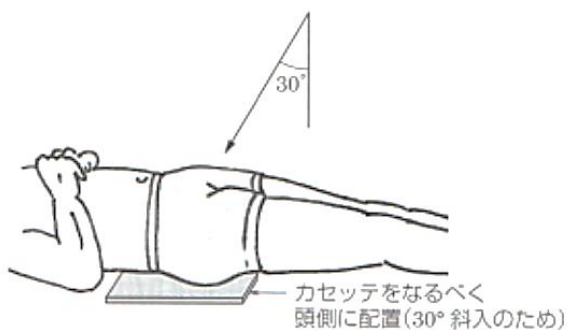
撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5	正面	70	400	80	100	10*12	18	○	3.487
No.6・3F	正面	70	400	40	100	10*12	18	○	1.706

● 画像の良否 ●

- ・寛骨、恥骨、坐骨などが左右対称に描出されていること。
- ・閉鎖孔も左右対称とし、坐骨部下縁が描出されていること。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●



恥骨軸位撮影

● 検査目的 ●

骨折、疾病を原因とする骨変化の観察。

● 注意事項 ●

- ・更衣の際にX線障害物がないように説明・確認し再撮影の防止に努める。
- ・車椅子・ストレッチャーから寝台へ移動の際には転倒・転落がないように注意する。

● ポジショニング ●

- ・仰臥位で両下肢を伸展位とする。
- ・左右の上前腸骨棘を結ぶ線が水平となるようにする。
- ・中心線は正中線上で大転子より3~4cm頭側に向けて頭尾方向30°で斜入する。

● 撮影条件 ●

撮影室	検査名	管電圧【kV】	管電流【mA】	照射時間【msec】	距離【cm】	サイズ【inch】	体厚【cm】	グリッド	入射表面線量【mGy】
No2・3・5	軸位	70	400	100	100	10*12	20	○	4.567
No.6・3F	軸位	70	400	50	100	10*12	20	○	2.252

● 画像の良否 ●

- ・恥骨結合が分離して描出され、閉鎖孔が軸位像として観察される。
- ・坐骨棘が左右対称に描出されている。

※検査目的および上記の画像良否の判断基準を満たすことが出来ない場合、再撮影の対象となります。

● 参考画像 ●

